



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R4 CS通信No.3 R4.5.17



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

地域の方々等専門の先生を講師に有意義な教育活動

4月27日(水)午前、西海小学校第6学年児童が、赤石川でサケの稚魚放流体験を行いました。

この稚魚は、昨年、児童自ら採卵した卵を孵化させ、この日まで大事に育ててきたものです。

西北地方水産事務所 水産普及所 藤川先生によると、放流したサケは、オホーツク海やベーリング海を回遊して、4年後、2～3キログラムまで成長して、ふるさとの川に戻ってくるそうです。何匹戻ってくるのか楽しみです。

また、サケがたくさん戻ってくるためには、環境の保全が大事で、川にゴミ等捨てないで、きれいな川を保つことが大事と話していました。

子どもたちは、藤川先生の話に真剣に耳を傾けていました。



鯨ヶ沢中学校第2学年では、5月11日(水)、町学芸員中田書矢先生を講師にふるさと学習を開催しました。

はじめに、中田先生から、北前船の時代の終わり頃の鯨ヶ沢の様子について教えてもらいました。明治時代に入ってから、汽船が登場して、和船が衰退した事、鉄道など陸上交通が発達した事、電信の発達で情報化社会となった事を聞き、鯨ヶ沢の近代化について考えました。

次に、探求してみたいテーマを決めるために、個人で考えたりグループで意見を出し合ったりしました。

グループごとに決めたテーマをホームページ

や鯨ヶ沢町史で調べて発表することになるので、生徒たちは張り切って学習を進めていました。

ふるさと学習の最初の時間として、生徒自らが司会進行を務めるなど、主体的に学習する場面も見られ、さすが中学生と思いました。



5月6日(金)舞戸小学校で走り方教室が開催されました。

鯨ヶ沢町陸上競技協会の先生方を講師に、全校児童が低中高学年の3ブロックに分かれて、走るための基礎・基本から学びました。

楽しく走ること、手や足の振り上げを大事にという先生方のアドバイスに耳を傾け、大きな返事をして練習に取り組んでいました。

最初はうまくできなかった子どもたちですが、練習をしているうちにコツをつかみ、走りの基礎基本を身に付けていました。

地域の方々を講師に、専門的な陸上の練習に取り組むことができました。

